編集後記

早稲田大学イタリア研究所紀要第 12 号をお届けします。イタリア研究所は紀要の刊行と並んでイタリア言語・文化研究会の名称で研究会を主宰しています。通常年 5 回、毎回 2 人の方の発表による研究会をコロナ禍の下ではオンラインで継続し、この 3 月で 177 回を数えました。紀要の刊行と研究会の開催はイタリア研究所の活動の車の両輪の働きをしています。

紀要第 1 号が刊行されたのは 2012 年の 3 月ですが、研究会の歴史はそれよりもはるかに古く、イタリア研究所の初代所長で現顧問の菅田茂昭先生の呼びかけで第 1 回例会が開かれたのは 1988 年 6 月のことでした。その後、せっかくの研究成果を活字の形で後生に残せないかと考え、紀要が誕生しました。その意味では、紀要は研究会の副産物と言えます。紀要第 8 号に第 1 回から第 158 回までの発表者の氏名と発表のタイトルを掲載しましたが、そこには三人のイタリア文化会館館長の名前も見られ、うち二人は発表当時若い留学生だったことを思うと、感慨を覚えます。

第 1 回例会で発表された三森のぞみさんが今回論文を投稿してくれたのも、うれしいことでした。今回は、書評を除く他の 4 名の執筆者も例会で発表されたことがあります。しかし、例会の発表が投稿の条件というわけではなく、我々は幅広い方々の投稿をお待ちしています。「継続は力なり」と言いますが、研究会と紀要が今後も長く続いていくことを願っています。

M. K.　Y. S.

編集委員会

池上公平　奥田耕一郎　小林　勝　白崎容子　高橋利安　辻　昌宏
西村安弘　濱口オサミ　福山佑子　古田耕史　三森のぞみ　渡辺有美